

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

ダニエル 4:30 王はこう言っていた。「この大バビロンは、私の権力によって、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が建てたものではないか。」

4:31 このことばがまだ王の口にあるうちに、天から声があった。「ネブカデネザル王。あなたに告げる。国はあなたから取り去られた。」

4:32 あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べ、こうして七つの時があなたの上を過ぎ、ついに、あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになる。」

4:33 このことばは、ただちにネブカデネザルの上に成就した。彼は人間の中から追い出され、牛のように草を食べ、そのからだは天の露にぬれて、ついに、彼の髪の毛は鷲の羽のようになり、爪は鳥の爪のようになった。

4:34 その期間が終わったとき、私、ネブカデネザルは目を上げて天を見た。すると私に理性が戻って来た。それで、私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は代々限りなく続く。

4:35 地に住むものはみな、無きものとみなされる。彼は、天の軍勢も、地に住むものも、みこころのままにあしらう。御手を差し押さえて、「あなたは何をされるのか」と言う者もない。

4:36 私が理性を取り戻したとき、私の王国の光栄のために、私の威光も輝きも私に戻って来た。私の顧問も貴人たちが私を迎えたので、私は王位を確立し、以前にもまして大いなる者となった。

4:37 今、私、ネブカデネザルは、天の王を賛美し、あがめ、ほめたたえる。そのみわざはことごとく真実であり、その道は正義である。また、高ぶって歩む者をへりくだった者とされる。

Dan 4:30 The king spoke, saying, "Is not this great Babylon, that I have built for a royal dwelling by my mighty power and for the honor of my majesty?"

4:31 While the word was still in the king's mouth, a voice fell from heaven: "King Nebuchadnezzar, to you it is spoken: the kingdom has departed from you!"

4:32 And they shall drive you from men, and your dwelling shall be with the beasts of the field. They shall make you eat grass like oxen; and seven times shall pass over you, until you know that the Most High rules in the kingdom of men, and gives it to whomever He chooses."

4:33 That very hour the word was fulfilled concerning Nebuchadnezzar; he was driven from men and ate grass like oxen; his body was wet with the dew of heaven till his hair had grown like eagles' feathers and his nails like birds' claws.

4:34 And at the end of the time I, Nebuchadnezzar, lifted my eyes to heaven, and my understanding returned to me; and I blessed the Most High and praised and honored Him who lives forever: For His dominion is an everlasting dominion, and His kingdom is from generation to generation.

4:35 All the inhabitants of the earth are reputed as nothing; He does according to His will in the army of heaven and among the inhabitants of the earth. No one can restrain His hand or say to Him, "What have You done?"

4:36 At the same time my reason returned to me, and for the glory of my kingdom, my honor and splendor returned to me. My counselors and nobles resorted to me, I was restored to my kingdom, and excellent majesty was added to me.

4:37 Now I, Nebuchadnezzar, praise and extol and honor the King of heaven, all of whose works are truth, and His ways justice. And those who walk in pride He is able to put down.

「高ぶる者を遜らせる神。」ダニエル4章30～37節

バビロンは、ユーフラテス川をまたいで広がる紀元前7～4世紀では世界最大の広大な城壁都市で、現在のバグダッドの南90キロ程にありました。創世記11章のバベルの塔が建てられた所で、古代から王国があり、最高の繁栄期がネブカデネザルの新バビロニア帝国でした。二重の城壁は内側が厚さ9.5mで外側が厚さ3.5mもあり、広さ800ヘクタールの強大なものでした。古代の7不思議の一つである空中庭園もあり、大通りは舗装され、両側には像が飾られている荘厳なものでした。ネブカデネザル王が王宮の屋上から眺めて、30節のように誇り高ぶるのも当然なほど権威あるものだったのです。

しかし、その一年前に神は夢で王に警告していました。王国が強大になって王が高慢になると、神は王を狂人にして「あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べて、天の露に濡れることになります。」(25)とダニエルが預言するのです。

「高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。」(イテモテ3・9)とあるように、悪魔は神の主権に逆らって天使長として思い通りに支配しようとしてので、戻ることができない高慢になってしまいました。ネブカデネザルも強大な帝国の帝王ですから高慢になって当然で多くの責任と戦いの中で興奮状態にあり、精神的にも危ういところでした。

初期の頃の教会員ですが、自動車の販売で断トツの売り上げを続け、休みなく働いていたのですが、お酒を飲んだ後、他人の家の炬燵に入って寝込んでしまい、お漏らしをしてしまいました。そして、そのまま精神病院に入れられてしまいました。家族からも縁を切られ、怒りと絶望感で症状は重くなる一方でした。教会に来て魂を救われたのですが、思い通りにならないと興奮して攻撃するので、幾つかの教会を追い出されました。この教会に来ても興奮することは度々あったのですが、次第に落ち着いてきて、週に何回も来てチラシ配布してくれました。思い通りにならないことを受け入れざるを得ないことを悟ったのです。

ネブカデネザルが狂人になったのは、神の一方的な介入だ、罰だ、などと考える人は、神の働きが人の思惑を無視した非人格的なものと捉える人です。それでは、信仰の人格的成長はありません。「患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」(ローマ5・34)という過程が信仰生活です。

思い通りに人生を生きようとし、人に従うことが身についていないと、精神状態が不安定になり、攻撃的になります。王という立場、生まれも現代社会では理解されないかもしれないかもしれませんが。イギリスの王族や日本の皇族なども、生まれながらに高い地位を持ち、またそれを保持することが使命ですから、精神的には不安定になるものです。

信仰者もまた、不自由、思い通りにならない生活、試練や艱難が続くと、全能の神を信じ従っているのに何故、と不安定になる人がおられます。それは、教会で、信者に神は人格的、信仰的成長を願い、取り計らっておられることを教えられていないか、或は、考え方として思い通りにならないことに不満を覚えてしまうからです。

「私、ネブカデネザルは目を上げて天を見た。すると私に理性が戻って来た。」(4・34)。彼は、自分が愚かな存在であることに気が付いたので。そして、思い通りにならないことに野獣のように怒り狂い、敵意を振りまいている惨めな自分に気が付いたので。私は、「恐れるな。虫けらのヤコブ、イスラエルの人々。わたしはあなたを助ける。―主の御告げ―あなたを贖う者はイスラエルの聖なる者。」(イザヤ41・14)が好きです。自分の思い通りにならない時、試練の時、非難が続くとき、この聖句を思い出します。私は虫けらに過ぎない。でも、神を信じ、神はどうにもならない時は助けてくださる、と思うと、平安と喜びがきます。

王は、「私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は代々限りなく続く。地に住むものはみな、無きものとみなされる。彼は、天の軍勢も、地に住むものも、みこころのままにあしらう。」(4・34・35)と、自らが「無きものとみなされる。」ことを受け入れる謙遜差を身に着けるのです。「そのみわざはことごとく真実であり、その道は正義である。また、高ぶって歩む者をへりくだった者とされる。」(37)という神の御手と配慮を悟るのです。